

氏名	木 林 速 雄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 693 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和 50 年 9 月 30 日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学 位 論 文 題 目	慢性膵炎における膵島細胞の組織化学的電子顕微鏡的研究
論 文 審 査 委 員	教授 砂 田 輝 武 教授 小 川 勝 士 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

ヒトの慢性膵炎の進行度と膵島の変化の関連を追求するため、ヒトの生検材料38例につき光顕的に膵の線維化をその程度により6段階に分類した。すなわち、正常の膵組織を Grade O とし、まったく線維化したものを Grade V とし各時期の膵島の変化を光顕的並びに電顕的に観察した。

線維化の進行と共に膵島細胞も微細構造レベルで変化が認められ、線維化軽度な Grade II でも一部の膵島細胞に粗面小胞体の拡張等がみられる。又、Grade IIIになると更に粗面小胞体の拡張や腫大、顆粒の減少等が強くなり、特にB細胞に変化が強い。しかし、Grade III迄は多くの膵島細胞はほぼ正常な構造を有しており機能上も問題とされないと考えられる。

線維化高度となった Grade IVでは膵島の約3分の2は光顕的にも空胞や顆粒の減少が著明となり電顕的にも粗面小胞体の囊胞状拡張、顆粒の空胞化、細胞小器官の消失が著明で特にB細胞の減少が顕著である。

一方、Grade IVの中には光顕的にも膵島数が著明に増加しているものがあり、ductulesの基底部に膵島細胞が発生してみられる。これはまず孤立性に散在しており、A細胞が多い。次第に増殖して集団となり間質へ向けて膨隆してみられるが、この集団をなす膵島細胞はB細胞が多い。この様にして新しい膵島が再生され ductules から分離されていくが、この状態は胎生期の膵島の発生と同様であり、成人の膵でも線維化高度なある時期には ducts からの膵島の再生が起ることが判明した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、慢性膵炎における膵島細胞の変化を組織化学的ならびに電子顕微鏡的に研究したものであるが、ヒトの慢性膵炎の進行度と膵島の変化、とくに今まで報告をみていない膵島細胞の微細構造レベルでの変化について重要な知見を得たものとして価値ある業績

であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。